

偉大な自然

(原文)

阿波 実果 (17歳)

大阪府

城南学園高等学校

私たち人間は自然の中で生きています。そして、自然によって生かされています。毎日空気を吸い、太陽の光を浴びています。木も川の水も私たちにとってなくてはならない存在です。幼少期には誰もが自然の中で遊んだのではないのでしょうか。公園で砂遊びをしたり、虫を捕まえたり、シロツメクサで花冠を作ったり、雪で雪合戦をして遊んだりと色々なことをして遊ぶことができます。そうしていく中で友達との仲を深めたり、好奇心や創造力、感性を磨いていきます。こうして子供は成長していきます。大人になっても、スキーなどのウィンタースポーツをしたり、お花見や紅葉を楽しむことができます。

しかし、自然が与えてくれるのは、このような娯楽だけではなく、恐ろしさも兼ね備えているのです。川遊びをしていたら川に流されたというニュースをよく耳にします。また、地震や火事、落雷などの自然災害も後を絶ちません。自然は私たち人間にはどうすることもできないほどの威力を持っています。私はふと、なぜ自然は恐ろしい面を持たなければならないのか、人間にとってプラスとなる面だけを持っていれば良いではないかと思いました。また、虫の存在も本当に必要なのかと考えました。虫が苦手な私は虫の良い点を見つけられなかったので、家族に聞いてみました。すると、私の家族は虫でも私たちの役に立っていると言いました。「家の中でゴキブリを見ると部屋の掃除をしようと思うでしょ。」と。すべての存在に意味があるのだと私の家族は言いました。その考えに私はとても納得し、虫以外の自然の恐ろしい面についても、必ず意味があるのだろうと思いました。

また、私は自然について考えていたときに自然の根源である宇宙に目を向けました。すると、多くの疑問が私の頭に浮かびました。なぜ、太陽系の惑星は回っているのか。なぜ、地球は回っているのに私たちは回っていると感じないのか。なぜ、地球は球形であるのに、海の水は宇宙へと流れ落ちないのか。不思議に思うことがたくさんあり、調べてみたところ、答えはしっかりとありました。なぜ、地球は球形であるのに、海の水は宇宙へと流れ落ちないのかという疑問の答えは、すべてのものに地球の万有引力という、引き合う力が働いているからであり、それによって地球上にあるすべてのものも、そして海もばらばらにならず、落ちないということでした。

このように、宇宙について考えると、宇宙の凄さと偉大さをとても感じました。広大な宇宙の中に小さな地球があり、その地球の中にはさらに小さな国々があり、その国の中にはさらにもっと小さな

人間が生きており、日々生活をしている。そう考えると、私という存在がちっぽけなものに感じました。名声のある人を除き、ある一人の人間の人生は世界的に見て、誰にも影響しないだろうと思ったことがあります。しかし、それは間違っていました。虫にも存在する意味があるように、一人ひとりの人間が活着ていることには意味があります。もし、みんなが同じ性格や才能を持っているならば、70 億人という数の人間は必要ありません。一人ひとり外見や中身の違う人間がいるからこそ「自分」が絶対的にこの世界に必要なのだということがわかりました。その人にしかない才能を發揮するためには、努力が必要です。努力していきながら、世界に、誰かに貢献するために活着ているのだと、自然を考える上で思いました。自然は当たり前すぎて普段は考えないけれど、少し目を向けると無限に発見があるのだとわかりました。私にも自分にしかできない何かを持っているということを心に留め、それを發揮できるように努力をして、誰かの役に立てる人になっていきたいです。